

地域密着型サービス評価の自己評価票 新井荘

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭から家庭へ みんな笑顔でやさしい家族 その一言のあいさつで みんながつながる地域の輪」をモットーに、利用者様が過ごしやすく、地域の方とのより良い交流ができるようにしていきたいと思っています。	○	運営推進委員会の役員と職員の話し合いにて決定しました。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のコミュニケーションでは笑顔を忘れず、常に明るい態度で接しています。又、玄関先に理念を提示し、日々の日常会話の中で伝え職員全員が理念の実現に向けて努力しています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関と事務所に貼ってあります。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ゴミ捨てや散歩・外出時等に近所の方に出会った時は、必ずご挨拶しています。自治体に加入していることもあり、回覧板を届ける等の交流もあります。又、近くの方が野菜等を持ってきてくださいます。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の敬老会・町内の祭り等の行事に参加しています。職員が婦人防火クラブに加入しており、又、地域の冠婚葬祭にもかかわることがあります。散歩の時にはご近所の方と挨拶を交わしたり、休憩をさせていただける家もあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営す新委員会の改選をきっかけに、隣近所の方にも委員になっていただき、地域の様子やホームの様子等を話し合い情報交換しています。又、避難訓練時には近所の方へ声を掛け、避難誘導や消火訓練・通報等について経験していただき、災害に対する意識を高める場としております。	○	近隣の方と更に交流を深め、地域の一員として、営業目的ではない方法で取り組めるといいと思います。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員全員で自己評価をしています。指摘された事項は、なるべく早く会議等で検討し改善できる様心掛け、サービスの向上に向け日々取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所から状況・行事等の情報交換や参加者からの意見・要望等の交換を行い、質の良いサービスを目指しています。又、災害時の協力依頼をしています。	○	普段より、散歩にて利用させていただいている公園の出入り口が車椅子利用者様の出入りに不便なこともあり、推進委員でもある区長に要望した所、すぐに市の担当者と話し合っていたいただき、出入り口の一部を通れるようにしていただきました。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1～2回くらい太田市の担当窓口へ出かけ、情報交換をしています。申請の代理や利用者様の情報報告等市との連携を行っています。時には利用者様と一緒に外出しています。	○	主に書類の申請や生活保護費の受け取り等利用者様と一緒に行く事があります。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じて入居時に話し合いをし、社会福祉協議会に相談しています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアルを作成し、日々、虐待につながる拘束は行わない様心掛けています。マニュアルについては、職員全員が確認できる様配置し、会議等で口頭で伝えていきます。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得に行くまできちんとした説明を行い、契約を結んでいます。又、同意が必要と思われる事項(個人情報・サービスに関する同意・ターミナルに関する同意等)は、入居時に確認し、書類に署名・捺印していただいています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情相談窓口を設けています。又、重要事項説明書に苦情相談窓口を提示し、行政窓口についても提示してあります。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に見えた家族には、その都度ホームでの様子を伝え、ケアプランの見直し時に必要に応じて電話等で最近の様子をお話しています。毎月の請求書と一緒に利用者様の様子をお便りで知らせています。又、管理者はお預かりしている金銭の報告と領収書の返却をしています。(家族の方には、確認のサインをいただいています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との対話を大切に、面会時には家族が苦情を言いやすい雰囲気作りに留意しています。苦情箱も設置しており、意見・苦情を反映できる場を設けています。	○ より良い環境作りの為、年1～2回を目安にアンケートを作成し、家族の方にご意見等を伺えるように検討していきたいと考えています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・普段の会話等において、常に意見を交換できる状況があり、意見を反映できる様心掛けています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様や職員の状況に応じて体制を整え、勤務の調整を行っています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の移動においてできるだけ最小限にしています。利用者様への不安を与え、その為に影響が出ない様にしています。又、新しい職員は慣れるまで、先輩職員と一緒にケアをし、引継ぎもスムーズにできる様配慮しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各自資質向上の為、レベルアップ研修・苦情関係・身体拘束・介護に関する研修等必要な研修を受けていただいています。又、必要に応じてホーム内において勉強会を行える様工夫しています。</p>	<p>○</p> <p>各自が介護に責任を持って取り組める様、施設内勉強会等行えるといいと思います。又、研修資料を見たり、個々に話すだけではなく、職員全体が同時に共有できる様な研修発表の場を設けられるといいと思います。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡協議会に加入しています。協議会主催のレベルアップ研修・東毛ブロック研修等積極的に参加し、他の施設を知る機会を設け、サービスの質の向上に努めています。又、研修等を活用し施設見学する等の交流しています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に職員の食事会等を行っています。又、ケアに関する悩みや人間関係等、お互いに話し合える環境作りをしています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は積極的に現場の様子を見に来ており、利用者様への介護や職員の業務等に関する事を把握し、アドバイスしています。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者様の身体状況・家族状況・環境等を細かく把握し、利用者様の不安等を軽減できる様納得のいくまで話し合っています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>上記同様、不安な面を良く聴いて、一つ一つ丁寧に説明しています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	方向性を見極め必要に応じて、他のサービス利用についても助言する事もあります。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得していただける様、ご本人・家族に見学してもらっています。又、必要に応じてすぐに入居ではなく、入居準備の一環として、1日ホームで過ごす・宿泊体験をする等の対応をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者様に対して「人生の先輩であり先生である」という考えの元で、日々、信頼関係を築ける様努力しています。調理等の家事や季節の行事・昔の話題等を通して教えられることも多くあります。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の入居に至るまでの経緯に共感し、利用者様のホームでの生活を支えあう為に、電話・手紙・面会時等にて利用者様の様子や介護していく為の共有事項の確認を行い、日々、協力体制を築ける様努力しています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人が電話をしたい等の意向があれば、すぐかけられる・家族との面会時はゆっくりと過ごせるよう場を設ける・ホームでのご本人の様子等家族との関係が維持できる様に取り組んでいます。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽にホームに立ち寄っていただく等友人・知人との関係が維持していける様に努力しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	昼間はホールで過ごしていただき、お互いが顔を合わせる事によって、関わり合い、支えあう機会を設けています。	○	認知症の程度により人間関係がうまく構築できず、トラブルになる事もあり、その際は利用者様の居場所の変更(外気浴や散歩に行く・居室や台所等別の部屋に行く)等、一度一人になる時間を作りますが、中には職員以外の利用者様とかかわりを持たない方もおり、今後の課題となっています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後もお見舞いや面会に行ったり、街中であった時は挨拶をする、様子を伺う等関係が途切れないようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人との会話や(意思疎通困難者の)表情等でご本人の思いや意向を汲み取り、又、家族からの意見等も聴く様にしています。利用者様本位の意向の把握に努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族・今までかかわってきた担当者等に情報を頂き、細かく把握できる様努力しています。又、必要に応じ利用前に自宅訪問をする・入居後も家族の面会等で今までの生活状況の把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のバイタルチェック・排泄チェック・食事の量・水分量等、一日の健康状態や行動を記録に残し、日々の様子を把握しています。又、ICFのケアプランシートを活用し、「ご本人のできる事」を見つけ出し、その人の全体像の把握に努めています。	○	この記録の中に会話の内容やできていた事・できない事・声掛け時の反応等も記入し、ケアプランに反映させ、より良い介護ができる様に取り組みたいです。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意向等を聴き取り、ケアプランに反映させる様に努めています。ケース担当者による毎月のモニタリングやアセスメントシートを活用した3ヶ月に1回のケア会議において、意見やアイデアを反映させた利用者様本位の介護計画を作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回ケアの見直しを行い、介護度の変更時、利用者様の状況に変化が生じた時には必要に応じて再度見直しを行っています。ケース担当制をとり、介護職員が観察していく上での気づきや状態の把握等を話し合い、ご本人や家族の意向を組み入れ説明・確認し、現状に即した新たな介護計画の作成をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録・介護記録を作成し、職員全員が把握する事で情報を共有しています。又、モニタリング中に利用者様に関する資料(介護計画・薬・アセスメントシート等)を一纏めにファイルし、職員全員が現状を把握し、情報の共有に努めています。	○	記録がもう少し細部まで記入できると、今後の介護計画に更に反映していく事ができると思いますので、個別記録の必要性を検討していきたいと思います。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様が行きたい所へできるだけ行ける様支援しています。美容院・買い物・病院への通院や見舞い等希望に沿った柔軟な対応をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の消防訓練を実施し、近隣の方に参加していただいています。又、敬老会や町内の祭り等に参加したり、ホームにおいての行事への参加を呼びかけたりと交流を図り、お互いに支援ができる様努力しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	病院との連携、自宅や他施設への移動等必要に合わせて、フォーマルな資源・インフォーマルな資源のサービスの活用に取り組んでいます。	○	利用者様の重度化に合わせて他のサービスの活用ができる様に、各事業所や各サービスとの連携を更に図っていききたいと思います。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて行っています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけの医師に一週間に1回往診に来ていただいています。又、必要に応じて受診に行く事もあります。専門の検査や入院等が必要な時は、協力病院での医療も受けられ、家族の希望する病院での対応もできる様になっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	職員間のターミナルケアに対する話し合いや勉強会の場を持ち、利用者様が安心かつ安全に暮らしていける様に体制を整えていきたいと思えます。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者様一人一人に尊厳を傷付けない様声掛けし、時にはなじみの方言・愛称等も使いながら、プライバシーの確保に努めています。又、記録等の個人情報の取り扱いにも配慮し、職員間ではイニシャルにて会話する等気を配っています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーションを大事にし、利用者様の思いや希望を汲み取りながら、自分で決められる状況を作り、納得しながら暮らせる様に努めています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には食事の時間・起床時間・就寝時間は決められていますが、基本にとらわれず比較的柔軟に対応しています。室内では一人一人思いのペース・居場所(フロア・居室・台所等)で過ごせる様支援しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お化粧品・美容院等ご本人の意向に応じて、おしゃれを楽しめる様に支援しています。又、お互いに洋服・髪型等を褒めあい、身だしなみを整える事をさりげなく意識できる様に努めています。	○ 理容室の方にホームまで出張していただき、利用者様の好みに合わせてカラーリングや散髪等をしていただいています。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の持てる能力を活かし、食事の準備・配膳・下膳・テーブル拭き等役割を決めて手伝っていただき、楽しく食事ができる様心掛けています。希望に合わせて献立を決める事もあります。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人個人の嗜好や希望に合わせた対応をしています。タバコは職員が預かり、決められた場所で吸っています。おやつ等の飲み物は、お茶・紅茶・コーヒー・ジュース等好みに合わせたものを用意して提供しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	毎日の排泄チェックを行い、排泄パターンや習慣を把握してトイレ誘導をしています。重度の方以外は、トイレでの排泄を原則にして支援にあたっています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上の入浴を行っています。利用者様の意思を尊重しながら、希望やタイミングに合わせて曜日・時間等も柔軟に対応しています。そして楽しく入浴できる様心掛けています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入眠時間を把握し、昼夜逆転しない様生活のリズムを整えながら一人一人に合わせた対応をしています。	○	不眠の訴えがある方には、必要に合わせて医師の指示にて処方された睡眠導入剤を服用していただき、安心して眠れる様対応しています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴や能力を活かし、掃除・食事作り・雑巾縫い・洗濯物たたみ等役割分担し支援しています。又、ドライブやお弁当を持参しての花見・外食・日帰り温泉・飲み物(コーヒー・紅茶・ジュース等)選ぶ・タバコを吸う等の気晴らしや楽しみごとを支援しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にて現金をお預かりしてホームで管理し、何か欲しい物等の希望を確認し、必要に応じて現金で購入・支払いをしています。手元にお金がないと心配な方には、家族に承諾をしていただき、少額を所持していただいています。時には、お金を使う事の満足感を持っていただける様な支援をしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近所を散歩したり、職員が野菜採りをしている時見学したり、ショッピング、職員の用事に合わせて一緒に外出したり、お弁当持参のドライブ等と気分転換できる様に支援しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食・花見・日帰り温泉旅行・りんご狩り等その時々体調や身体状況に合わせて、なるべく多く外出ができる機会を作っています。希望があれば、コンサートに行く事もあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家に電話してほしい」とご本人の希望があれば、電話をしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問に来ていただける様笑顔で接しています。家族が気兼ねなく過ごしていただける様、ご本人の居室で過ごす・訪問者用のスペースで過ごす等ゆっくりできる場所を確保しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃の職員間の会話の中で、どんな事が身体拘束に該当するのかわかり合、拘束のないケアを心掛けています。安全面等について不安のある利用者様や家族の方には、必要に応じて説明し納得していただける様心掛けています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵を掛けず、利用者様が自由に出入りできる様にしています。職員一同は常に見守りを行い、利用者様の様子に対応して、安全面への配慮をしています。	○	職員・面会者・来訪者や特に認知症の徘徊利用者様には、出入り状況が確認できる様に、玄関と必要箇所にセンサーを取り付け、常時見守りができる様にしました。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間フロアにて過ごす利用者様には、時々、声掛け・足音等で様子を確認したりと安全面の確保に配慮しています。夜間も利用者様の様子が確認しやすいように、職員はフロアで過ごし、いつでも対応できる様にしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	タバコ・ライター・はさみ・裁縫の針等危険と思われるものは、職員が管理しています。又、薬関係も1箇所にとどめ、職員が誤嚥等事故のない様に個別に管理しています。利用者様の要望があれば、その都度必要なものを渡し、最後に職員に戻していただける様対応しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員は声掛け・見守り・行動の観察を重視し、事故を防止できる様取り組んでいます。ヒヤリハット・事故マニュアルを整備し、発生時には迅速に対応できる様にしており、報告書等の記録もきちんと整理しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	個別の急変時の対応策を作成し、ファイルに保存していません。数名の職員は3年前に普通救命講習を受け、緊急時の対応がスムーズにできる様勉強しました。	○	職員全員がいかなる時にも、冷静に判断できる力を身につける必要があると思います。その為、施設内研修・勉強会を行い、応急手当や緊急時の対応等定期的に開催していきたいと思います。(普通救命講習の受講から3年経過しますので、年内には再講習を予定しています。)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回(5月・11月)の消防訓練を実施。地域の方にも参加していただき、避難誘導・消火等災害時の協力体制をお願いしています。消防訓練の際には、通報・消火訓練や避難経路・場所の確認等、地域の方を含め、災害想定(昼間・夜間等)を変えながら対応策を確認しています。又、緊急時の連絡網を整備しています。	○	運営推進会議の中で消防訓練を実施。役員の方にご理解いただいた上で、災害時の連絡網を整備しました。今後も夜間や地震・水害等を想定し、訓練を重ねていきたいと考えています。又、役員の方の提案により玄関先に防犯ベルを設置し、ご近所の方にお知らせできる様に対策しました。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	比較的規制の少ない自由な暮らしを心掛けている為、問題が発生する可能性がある時は、必要に応じて話し合っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを基準とし、普段と違う状態(顔色・食欲・排泄等)や体調の変化(発熱・嘔吐・疼痛等)が見られた場合は、必要に応じ担当医の指示をいただき対応しています。状況によっては、医療機関への受診につなげています。変化時は記録をつけ、きちんと報告ができる様にしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が1箇所にとまとめ個別に整理しています。服薬時は、職員が手渡し、きちんと服用しているか確認しています。職員は利用者様が服用している薬を個別記録の中に保管している処方箋等で確認をしています。	○	服薬について、副作用や薬の相互作用を各自がもっと勉強しなくてはいけないと思っています。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックにて排便状況を把握し、食事の見直し・水分摂取・薬によるコントロール等を行い、便秘にならないよう気をつけています。又、なるべく体を動かしていただける様工夫し声掛けをしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けをし、うがい・歯磨き等の口腔ケアをしていたり心掛けています。自力でできない方は、入れ歯洗浄等利用者様の状況に応じた口腔ケアをしています。又、必要に応じ歯科医への受診も行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外に一日お茶(10時 180cc、12時 180cc、15時 180cc、17時 180cc 他)約1000cc以上摂取。又、食事量・水分量・栄養バランス等個別記録に記入をしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染予防マニュアルが整備されており、職員全員が見られるように配置、手洗い・うがいの施行、感染の流行に合わせて対応しています。職員も排泄介助後の手洗い・調理時の手洗い・ホーム内の換気・湿度等細心の注意を払い、感染予防に努めています。	○	今年度はインフルエンザの流行に伴い、使い捨てマスク・手指消毒を完備、対策を整えました。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前には必ず石鹸にて手洗いの施行をしています。新鮮な食材を冷蔵庫にて保存し、定期的に食材の点検を行います。調理の際は衛生面を考慮し、キッチン廻りの清潔に留意しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にはプランターを置き、季節ごとのお花が楽しめるようになっています。出入口にはスロープを設置し、利用者様が出入りしやすくなっており、又高齢のお客様が見えたときには玄関に設置してある椅子に腰を下ろしていただけるようになっています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間にはソファ・椅子・テーブルを設置、カーテン・衝立等を利用してトイレ・浴室等のプライバシー確保に努めています。壁に季節の行事が味わえるもの、写真等を展示しています。又、玄関先には季節のお花を飾って家庭的な雰囲気作りを心掛けています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居場所は自由になっていますが、各自居心地のいい場所(座る位置・台所・玄関先等)に座り、思い思いに時間を過ごされています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、使い慣れた物(寝具・テレビ・家具・宗教・位牌・飾り物等)を持参していただいています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に窓や玄関を開ける・換気扇をまわす・消臭剤を使用する等の温度・湿度の調整や室内のにおいの解消の為、換気を行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面はバリアフリー、階段には手すり・昇降機、必要箇所にはすべて手すりを設置しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋の前には利用者様の名前やトイレの場所等の目印を表示し、スムーズに移動ができる様工夫しています。必要に応じて利用者様が自立した生活ができる様職員間で話し合い取り組んでいます。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	2階の各部屋(東側・南側)ベランダへ出入りできる様に設置、布団干しに利用しています。玄関先では、自由に外気浴を楽しめる様椅子や車椅子を用意しています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

徘徊のある利用者様に対し、鍵をかけないケアを実行しています。外に出た場合は、なるべく職員が付き添い、見守る様にしていきます。又、今年度は記録の改善に取り組み、食事・水分量を確認しやすくし、日誌やモニタリング評価の改善と各記録への職員一人一人がしやすい様改善し、徹底できる様努めました。